

AI技術で医療現場の生産性と患者満足度の向上 医療機関の働き方改革への貢献

同社は「テクノロジーで人々を適切な医療に案内する」をミッションに掲げ、医師とエンジニアが2017年に創業したヘルステックスタートアップである。AIをコア技術とし、医療現場の業務効率化を図る問診システム「ユビーAI問診」と、生活者の適切な受診行動をサポートする事前問診システム「ユビーAI受診相談」を開発し提供している。医療現場の膨大な事務負担を軽減し医師の働き方改革や医療機関の生産性向上に貢献している。またシンガポール進出を皮切りに全世界へのサービス提供を目指している。

所在地 東京都中央区日本橋室町1-5-3
福島ビル601号室

電話/FAX 03-4405-2169

URL <https://ubie.life/>

代表者 共同代表取締役 阿部 吉倫・久保 恒太

設立 2017年

資本金 205,000万円

従業員数 130人



AI技術で医療機関の業務効率化を実現

全国に約20万人いる病院勤務医の約4割の医師の年間残業時間は960時間以上と言われている。そのなかの約1割は年間残業時間2,000時間を超えており、医療現場の業務効率化は喫緊の課題である。そこで同社は「ユビーAI問診」を開発し、問診時間の大幅削減で診察ワークフロー全体の効率化を実現した。導入した病院では、初診患者の1人あたりの問診時間が約65%削減され、年間の問診時間合計が従来の1/3となり約1,000時間の削減に成功した。医療機関の業務効率化と働き方改革に大いに貢献している。



問診システム「ユビーAI問診」

「ユビーAI問診」で医師と患者の会話の時間が増え患者の満足度向上にも貢献

「ユビーAI問診」は紙の問診票の画一的な質問とは違い、患者の症状に沿って個別に質問が生成され、患者側は診察前の待ち時間であらかじめ詳しい症状を伝えることができる。医師側は問診前に関連する病名がリストアップされるので、疾患の見逃し防止や多角的な視点での診療が可能になった。それにより、医師と患者が目と目を合わせ会話する時間が増え、患者満足度の向上に貢献している。また、現在急性期病院を中心に全国で400以上の医療機関に導入されている。



「ユビーAI問診」活用の様子

生活者を適切な医療に案内する「ユビーAI受診相談」

新型コロナウイルスの感染が急速に拡大した2020年4月には、生活者向けの受診相談サービス「ユビーAI受診相談」の提供を開始した。これは、AIからの質問に回答すると、関連する病名や近隣で対応可能な医療機関を調べることができるもので、どの診療科目・医療機関を受診すべきかわからない生活者の悩みの解消に貢献しており、現在月間300万人以上が利用している。同社は、医療サービスの提供側の医療現場と、受ける側の生活者の双方にアプローチすることで、医療をとりまく課題の解決に取り組んでいる。



受診相談サービス「ユビーAI受診相談」